

学校の教育目標

ふるさとの学びを基盤とし、心身共にたくましく 自ら考え伝え合う 子どもの育成

実態（課題）	学力状況	学習状況	体力の状況	いじめ・不登校の状況
	①国・県・市の学力調査結果から算数の活用に課題がある 6年全国…算数活用（全国より+11.5）対象者7名 5年大分県…算数活用（県より+7.7）対象者2名 4年杵築市…算数活用（市より-11.8）対象者6名	①自分の考えを広げたり、筋道をたてて論理的に伝えたりする力に課題がある。 ②家庭学習の取組に差がある。	①体力テストの結果、上体起こし、長座体前屈、50m、ボール投げが県平均値より低い。	①H30年度文科省いじめ調査件数4件（内容…冷やかしかや暴言、たたく等）現在解消 ②長期欠席児童が1名（家庭の教育方針）

※ 授業改善計画に係るスケジュールおよび協議の場については、別途、校内研資料に示す。

重点目標 教育目標に向けて	担当 ◎主 ○副	達成指標 目指す姿	重点的取組（達成指標に向けて）		取組指標 誰が・何を・どのくらいの頻度で	取組状況の確認 （取組指標に対して）		達成状況の確認 （達成指標に対して）		考察・改善策 （取組状況・達成状況結果から）
			授業改善テーマ 育てたい力・目指す授業	取組内容 具体的・日常的な取組		評価	根拠	評価	根拠	
学力・学習状況	◎川野・○河野	の②待え① 活2得方算 用学点の数 が期を学の 全の上期単 国市回毎元 やのるのテ 市学。学ス よ力年ト り調平数 上査均学 回で点的 る算がな 数期考	自分の考えを伝え合う力を育てる授業の育成	算数科は北小スタンダードで行い、話し合い活動の時間と振り返り問題は必ず確保する。	週4回以上北小スタンダードで行い、話し合いの時間を15分以上確保する。	B	1学期末アンケートの評価項目で、達成できていた職員が40%であった。	B	①算数の単元テスト数学的な考え方の学期ごとの数学的な考え方の学年平均点が期待得点を上回った学年が67% 上回った学年は、1年、3年、5年、6年	・児童の実態に合わせ、北小スタンダードの見直しをする。 ・考えを深める手立てを講じ、話し合う時間を十分確保する。 ・取組状況と達成状況との関連や今後の動向を把握し、成果と課題を整理する。
					毎回振り返り問題を行い、週の平均正答率が8割以上になっているか見取り、不正解児童には、個別指導を行う。	A	振り返り問題は、全学年取り組んだ。そして、平均正答率を見取り、不正解児童に個別指導も全学年行い、100%達成できた。			
					聞き取り活動を毎週1回、ぐんぐんタイムの際に行う。	A	1学期末のアンケート評価項目で、達成できていた職員が100%であった。1学期中旬より実施。			
体力	寺西	る年目国① 。度数平体 よの均力 り数以上テ 上値上ス げをのト 前項全	一校一実践	元気もりもり「もりもりタイム」 主な取組内容 ①体力テストで平均以下の項目 ②縄跳び大会の練習 ③持久走大会の練習	週4日（月～木）の8:15～8:20（5分間）もりもりタイムを行う。	S	行事のため実施できないとき以外は、100%実施した。	S	予定通りに実施できた。	・実施はできているが、取り組み方については改善する必要がある。学年事の実施から縦割り班事の実施変更を考えている。
徳育・いじめ・不登校	川上	るア②度① 。ン自よい ケ分りじ ーか増め トらや解 結果学さ を校内率 。8外・不 0%挨拶 以上す る児童 を前年	挨拶	「自分から大きな声で」を合い言葉	児童会と連携しながら、毎朝学年毎に挨拶運動を行い、児童会担当が毎月みかじめを行う。	A	・毎朝、学年ごとにあいさつ運動を実施している。 ・児童集会で、毎月みかじめを行っている。	S	・いじめ解決率は前年度と同じ100%。 ・不登校児童も増えていない。 ・児童アンケートの評価項目の自分からあいさつをすることができると答えた児童が85%。	・児童のアンケートでは、85%の児童が、自分からあいさつをすることができると答えたが、あいさつの声の大きさなどについては、今後も声かけが必要である。また、残りの15%の児童への取り組みも考える。
			未然防止（いじめ不登校）	いじめ…にこにこ言葉の励行	「にこにこ言葉」の目標を週始めに決め、週末に評価をする。（帰りの会時）	A	前半は各学級での取り組み、後半は児童会が提案し、全校で統一して取り組んだ。			
			早期発見	気になる児童の情報を全職員で共通理解する場をもつ	毎週木曜日の職員朝会で情報交換を行う。	S	毎週木曜日の職員朝会で、情報交換を行なった。			
			解決支援	全職員で組織的に取り組む	教育相談コーディネーターを中心に全職員で組織的に取組むと共に外部機関と連携する。	S	全職員と外部機関が参加して、ケース会議を実施した。			
			SC、SSW、関係機関との連携・活用方法		いじめ・不登校の解決支援のみならず、未然防止として、SCを講師にした職員研修の実施					
担当	重点的取組					考察・改善策				
家庭	①学年×10分+10分以上の家庭学習をするように週に2回以上声かけを行う（確認する） ②寝る時間を親子で決めて、毎週確認をする					①②のアンケート項目は、全て80%以上であった。今後も、月1回の生活振り返りカードの取り組みを継続していく。				
地域	①挨拶の推進…子ども達に出会ったら、大人から声かけをする（おはよう、こんにちは、おかえり等）					CS会議や地域の方々が参加する会議等で今後も挨拶の声かけをお願いしていく。				

※ 評価・・・SAB評価 ←事務所未確定